



バラを愛したチューダー 〜最も古い歴史に生きる〜

バラが花の女王である「内密」を意味するらることに異議を唱える。しい。人はそう多くはないだろ。

その一つの理由は、バラが古代ローマ時代から人に愛された歴史を持つからだと思われる。古代ローマ時代の皇帝ネロはバラに膨大な費用を費やしたと言われ、とうとう「バラの中で暮らす」という言葉まで出来た。天井からバラを吊るした宴の会議の内容は一切秘密という風習(ふうしゅう)が生まれ、現代でもヨーロッパでは「バラの下」といえるん奥方。60年近くの

長い結婚生活の中で棘は多少あるのを「良し」とすれば力強く咲き誇っている。

もちろん花の女王はバラだけではない。色々な花にはそれぞれ

の女王と呼ばれるものがある。バラ以外の別の花の女王に目移りすることなく、残された人生を生きねばとさし木でついたバラを見ながら思う。

日本ではあまり知られていないが、イギリスの王室の紋章にもなっている「チュードル・ロマ」を巡って、ランカスター家とヨーク家の間で王位継承の「バラ戦争」が行われた。結果的にはその戦争により両家は結ばれバラが「国花」となったという歴史もある。

また、バラは聖母マ

隣の枝のバラが枯れて、次のバラが咲く



リアとも関係が深く、友人の家にバラの上に立つ聖母マリア像があると聞いて見せてもらいに伺った。相当古い時代のものらしい。カトリック教会ではロザリオというものを使用して祈る習慣があり、我が家でも月に2回、そのロザリオの祈りを行って

いる。バラのロザリオを使うことも多い。バラは単に庭を飾るものではなく、信仰生活の中にも息づいている。

バラが花の女王と言われる所似は、色々ある。願わくは日本の漢字でもっと簡単に書けるようになってほしい。私は今もってその書き順が解からず困っている。

いや、そんなことは確かだ。一番大切なことは今をどう生きるかだ。歳を取ってもやるべきことは沢山あるとターシャの本を読み直す。



練炭火鉢のバラ

バラの上に立つマリア様